

事例7 「楽器の音色や響きと奏法との関わりを理解し、創意工夫して演奏する」事例

○学年 第2学年

○領域・分野・題材名 A表現(2)器楽 「ギターで伴奏に挑戦しよう」

○事例のポイント

- ①生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は、【音色】である。
- ②思いや意図を生かした表現をするために必要な技能の習得に向けた活動を例示する。
- ③ペアやグループ活動を通して、主体的・対話的で深い学びの授業展開を例示する。
- ④全体で共有する事項、また、生徒自身の音楽表現を記録するためのICT端末の活用を例示する。

ICTを活用した主な学習場面

・必要な技能の習得や向上と自分の音楽表現を記録

ICT活用の利点

- ①ワークシートにコードチェンジの動画(二次元コード)を入れて、必要な技能の習得に向けて主体的に学習に取り組むことができる。
- ②個々で音楽表現を録画し、思いや意図をもって表現したいという意欲を高める。

1 題材名 ギターで伴奏に挑戦しよう(3時間扱い)

2 題材について

(1) 生徒の実態

生徒は、音楽活動に興味・関心をもち、意欲的に学習活動に取り組んでいる。そして、それらに必要な知識及び技能を身に付けたいと考えており、授業に対して真面目に取り組んでいる。第1学年のギターの学習においては、「荒城の月」の単旋律を演奏することに積極的に取り組んだ。与えられた課題を解決できるように、授業内にとどまらず、自宅でICTを用いて模範演奏を確認し、次時の授業へ準備をしている生徒もいた。一人一人の生徒が、何が課題であるかをクリアにすることで演奏技能を身に付けてきている様子が見られる。

(2) 題材について

本題材では、G・D・Em・Cの4つのコードを用いた基本的な奏法を身に付けて演奏する。

第1時では、4つのコードの押さえ方、ストローク奏法、コードチェンジを学ぶ。3つのリズムパターン(全音符、二分音符、四分音符)でダウンストロークとアップストロークを行う。弾く位置や弾き方によって、音色が変わることに気付かせるようにする。

第2時では、伴奏としての役割を考え、曲にふさわしい器楽表現をどのように表すかについて思いや意図をもつ。前時に学んだ5つのコードチェンジ方法を確認し、実際に教材を弾かせる。そこで、曲のイメージをつかませていき、弦の弾く位置や弾き方によって音色が変わることを生かして、曲にふさわしい演奏方法を試行錯誤させたい。

第3時では、自分の思いや意図を生かした表現になっているか、グループで聴き合う。そこで、演奏に対して意見を出し合い、より自分の思いや意図を生かした表現になるように試行錯誤させたい。また、表現に必要な技能を身に付けさせるようにする。

題材を通して、楽器の音色や響きと奏法との関わりを理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい器楽表現を創意工夫することができるように指導していく。弦の押さえ方やストロークの仕方など、複数の技能を関わらせてよりふさわしい演奏の仕方を工夫しながら技能を身に付けることも期待したい。表現を工夫する際には、「音色」を思考・判断のよりどころとしていく。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材は、A表現(2)器楽ア、イ(イ)、ウ(ア)に関連している。本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は「音色」である。

3 題材の目標

- (1) ギターの音色や響きと奏法との関わりを理解するとともに、創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。 <知識及び技能>
- (2) ギターの音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、器楽表現を創意工夫する。 <思考力、判断力、表現力等>
- (3) ギターの奏法による音色の違いに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、音色の多様さと表現の魅力を味わう。 <学びに向かう力、人間性等>

4 教材について

「カントリーロード」(B. ダノフ・T. ナイヴァート・J. デンヴァー作詞・作曲)

CMや映画などで耳にすることも多い曲であり、生徒もなじみのある曲である。G・D・E m・Cの比較的押さえやすい4種類のコードのみで構成されており、ストローク奏法による伴奏が適している曲である。

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	器楽ア	器楽表現に関わり知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現を創意工夫すること。 イ(イ) 楽器の音色や響きと奏法との関わりについて理解すること。 ウ(ア) 創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付けること。
〔共通事項〕	ア	音色
	イ	
具体的な学習活動		<ul style="list-style-type: none"> ・曲想を感じ取りながら、曲に対するイメージを持ち、創意工夫する。 ・思いや意図をギターで表現するための音色や響きと奏法との関わりを理解し、創意工夫を生かして演奏する。

6 題材の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	知 ギターの音色や響きと奏法との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした表現でギターを演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。	思 ギターの音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	態 ギターの特徴や基礎的な奏法に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
1時	知 観察・発言・記述		↓
2時	↓	思 観察・発言・記述	↓
3時	技 観察・発言・聴取		態 観察・発言・記述

実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。
(P111 評価資料を参照)

7 指導と評価の計画 (全3時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・学習活動 T:具体的な発問 S:具体的な生徒の姿	○指導上の留意点	事例のポイント ◎留意事項
1	<p>◆ギターの音色や響きと正しい奏法との関わりを理解し、音色や奏法への関心をもつ。</p> <p>○楽器の構え方の復習をする。 ・開放弦で弾く。</p> <p>○ストローク奏法を身に付ける。 ・3つのリズム(全音符・二分音符・四分音符)をダウンストロークとアップストロークで弾く。 ・3つのリズムを演奏して、どのような感じがするか考える。</p> <p>T:ストローク奏法でリズムを変えると、どのような感じになりますか。 S:全音符は、ゆったりしている感じが、落ち着きや安心感を与えます。 S:二分音符は、穏やかで、安定しつつも少し前進する感じがあります。 S:四分音符は、一步一步歩くような動きや勢いを感じさせます。 ・弾く位置を変えて演奏する。</p>	<p>○姿勢や構え方について、生徒に発問しながら進め、振り返りを行えるようにする。</p> <p>○ダウンストロークとアップストロークを実際に見せてから弾くようにする。 ○自由に弾かせて、どのような感じがしたか、ワークシートに言葉で書けるようにする。 ○リズムの違いによる感じ方の違いを理解できるようにする。</p> <p>○実際に開放弦で演奏しながら試行錯誤できるようにする。</p>	<p>ポイント④ ◎楽器の構造や弾く位置など、全体で共有することをプロジェクターに大きく映し、生徒が理解しやすくする。</p>

T: 弾く位置を変えてみると、音色はどのようになるでしょうか。

S: ネックに近いと、柔らかい音色になり、響く感じがします。

S: サウンドホールの上だと、心地よい音色がします。バランスがよい感じです。

S: ブリッジに近いと明るく硬い音色であり、金属的に響きになります。シャリシャリとした印象です。

・爪や指の腹を使用して、弾き方を様々に試す。

T: 弾き方を変えてみると、音色はどのようになるでしょうか。

S: 指の腹でストロークすると、やわらかい感じがします。

S: 爪でストロークすると、硬い音色でした。

○弾く位置が異なると、音色が変わることに気付けるようにする。

○ワークシートの一部①の表に記入させるようにする。

○実際に開放弦で演奏しながら、試行錯誤できるようにする。

○弾き方が異なると、音色が変わることに気付かせるようにする。

○ワークシートの一部①の表に記入させるようにする。

【ワークシート①】

弾く位置	指板寄り ←————→ ブリッジ寄り			
弾き方	指の腹		爪	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・温かい ・やわらかい ・ふわっと広がる 	<ul style="list-style-type: none"> ・明るさの中にやわらかさがある ・落ち着いた感じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・音が響く ・透明感がある ・芯がしっかり残る感じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・音のはっきりする ・金属の音がする ・硬い

それぞれの言葉で音色の特徴（感じたこと）を記入させる。次時の思考・判断のよりどころとなるようにしていく。

- コードの押さえ方を知る。
 - ・4つのコードの押さえ方を確認する。
 - ・実際にギターの弦を押さえる。
 - ・ワークシートに自己評価、ペア評価を記入する。

- コードチェンジを身に付ける。
 - ・コードチェンジの運指を確認し、リズムに合わせてスムーズに演奏できるようにする。
 - ・コードチェンジについて、自己評価する。

- ・自分でコースを選び、粘り強く取り組む。

- 押さえ方について丁寧に説明するようにする。
- 机間指導を行い、正しくコードを押さえることができているか確認するようにする。
- 授業での成果を記録し、課題点を自覚できるようにする。

- 各コードで色分けをして、分かりやすく示すようにする。
- コードチェンジが上手くいかない場合、どこでつまづくのか分析させるようにする。
- 動画を補助的に使用し、生徒が動画を見たいときに見られるように準備しておくようにする。
- 技能を身に付ける過程では、「レッスンコース」(先生と)「チームコース」(仲間と)「チャレンジコース」(個人で)自分に合うコースを選ばせ、コードチェンジ習得をさせる。

ポイント③

◎生徒同士がコードの押さえ方を教え合ったり、確認し合ったりすることで、主体的・対話的に学習に取り組むことができるようにする。

ポイント③

◎生徒同士がコードの押さえ方を教え合ったり、確認し合ったりすることで、主体的・対話的に学習に取り組むことができるようにする。

ICT活用の利点①

ワークシートの②のようにコードチェンジの動画（二次元コード）を入れることで、生徒がつまづいた時にその場で確認することができる。机間指導で観察しながら、困っている生徒には積極的に動画視聴をして技能習得を目指すように声をかけていく。自分のペースで、全生徒が主体的に学習に取り組むことができる。

【ワークシートの②】

○コードチェンジに慣れよう

	コードチェンジ	動画	自己評価	ペア評価
①	<p>Gコードの押さえ方の図 → Dコードの押さえ方の図</p>	二次元コード	◎ ○ △	◎ ○ △
②	<p>Dコードの押さえ方の図 → Emコードの押さえ方の図</p>	二次元コード	◎ ○ △	◎ ○ △

<p>2 本 時</p>	<p>◆ギターの音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。</p> <p>○伴奏の役割について理解を深める。 ・音源を聴き、曲のイメージに合った主旋律の楽器を選ぶ。</p> <p>○曲にふさわしい器楽表現として、どのようにギターで演奏するかについて思いや意図をもつ。 ・演奏しながら、主旋律の楽器の音色を感じ取りながら、どのようなギターの音色で伴奏することがふさわしいか考え、ワークシートに記入する。</p>	<p>○主旋律（ヴァイオリン、サクソ、アコーディオン、フルート）の音源を準備し、ギター伴奏の役割について考えさせるようにする。</p> <p>○生徒の思考の流れを把握するようにする。 ○弾く位置や弾き方を変えて、自分の表現したい演奏に近付けるように、試行錯誤させるようにする。 ○【音色】を思考・判断のよりどころとさせるようにする。</p>	<p>ポイント①</p> <p>◎音楽を形づくっている要素【音色】を思考・判断のよりどころとしてどのような表現をしたいか考えるようにしていく。</p>
<p>3</p>	<p>◆創意工夫を生かした表現で演奏するために、必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付ける。</p> <p>○曲にふさわしい表現で演奏する。 ・主旋律に合わせて演奏する。</p> <p>・グループで聴き合い、自分の表現したい演奏に近付けるようにする。</p>	<p>○前時に考えた表現を演奏させ、必要な技能習得に困っている生徒に机間指導をしていく。 ○リズムの変化を考えたい生徒は、可能であることを伝える。 ○演奏する前に、どのように演奏したいか説明させる。「○○な感じに演奏したい、○○なイメージを表現したい、そのために■■な弾き方をして□□な【音色】になるように演奏します」と説明させる。 ○演奏者の説明を、聴き手の視点にさせる。 ○伴奏としての役割についても、聴き手の視点とさせる。</p>	<p>ポイント②</p> <p>◎思いや意図を生かした表現をするために必要な技能を習得できるようにしていく。</p> <p>ポイント③</p> <p>◎生徒がグループ活動を通して、主体的・対話的に学習に取り組むことができるようにする。</p>

<p>・アドバイスを生かして、自分の演奏について試行錯誤を繰り返す。</p>	<p>○記録用として録画しておくようにする。 ○グループで出た意見、録画したものを客観的に聴き、自分の音楽表現について振り返りをさせる。 ○試行錯誤を繰り返し、自分の表現したい演奏になるように考えさせる。</p>	<p>ポイント④ ◎録画したものを聴くことで、自分の表現を振り返り、新たな考えを得ることができるようになる。</p>
<p>ICT活用の利点② 自分の音楽表現を録画して、演奏を客観的に聴くことで、より曲にふさわしい表現を深めることができるようにする。新たな気付きから、こんな風に演奏したいという意欲を高め、またそのように演奏するには改めて〇〇な技能が必要になってくると気付くようになる。</p>		
<p>○題材を振り返る。 ・題材を通して、学んだことをワークシートに記入する。</p>	<p>○何を学んだのか記述させ、自分の成果と課題を見付けさせるようにする。</p>	

8 本時の学習指導について（2／3時）

(1) 目標

ギターの音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもつ。
〈思考力、判断力、表現力等〉

(2) 展開

<p>○学習内容・学習活動 T：教師の発問 S：具体的な児童の姿</p>	<p>○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法</p>
<p>○伴奏の役割について深める。 ・音源を聴き、主旋律の楽器を選ぶ。</p>	<p>○主旋律（ヴァイオリン、サクソ、アコーディオン、フルート）の音源を準備し、ギター伴奏の役割について考えさせるようにする。</p>
<p>本時の目標 曲の雰囲気に合った ギター伴奏の工夫を考えよう</p>	
<p>○曲にふさわしい表現としてどのようにギターで演奏するかについて思いや意図をもつ。</p>	<p>○二分音符のリズムで演奏し、ギターの音色に着目できるようにする。</p>

・演奏しながら、どのような音色で伴奏することがふさわしいか考え、ワークシートに記入する。

一斉発問

T: どのような伴奏がふさわしいですか。

S: 主旋律を引き立たせたいです。

S: 伴奏が前に出すぎない弾き方を考えたいです。

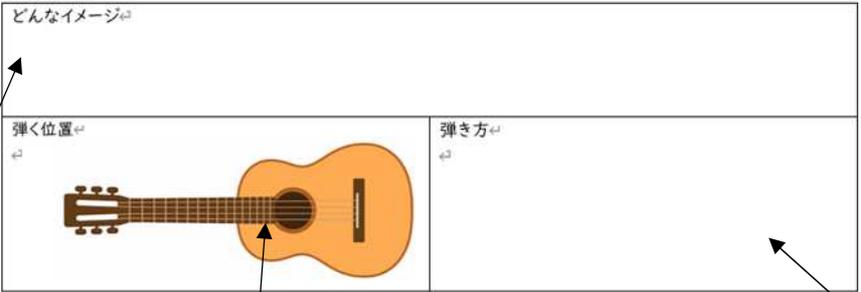
S: 主旋律とのバランスを考えたいです。

○ワークシート③の表に記入しながら、取り組ませるようにする。

○活動に入る前に、一斉発問を行い、伴奏としての役割を確認させる。

【ワークシート③】

○エ夫した点	
どんなイメージ	
弾く位置	弾き方



生徒が、どのような思いや意図で音楽表現しようとしているか、把握する。

演奏する場所を記入させる。
指の腹、爪に近い場所など・・・

どのあたり（指板寄り、ブリッジ寄り）を弾くのか、ギターイラストに「○」を付けさせる。

机間指導での会話（生徒の思考の流れを把握）

T: どのようなイメージを音楽で表現したいですか。

S: 故郷の山や道を思い浮かべるような感じにしたいです。

T: そのイメージをどのような音色で表すと表現できそうですか。

S: やわらかい音色にしたいと思っています。

T: どのようなイメージを音楽表現で表したいですか。

○机間指導で、生徒と会話をしながら思考の流れを把握するようにする。

○弾く位置や弾き方を変えて、自分の表現したい演奏に近付けるように、試行錯誤できるようにする。

○【音色】を思考・判断のよりどころとさせるようにする。

☆ギターの音色を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲に

<p>S:懐かしい気持ちと少し切ない感じにしたいです。どのような音色が切ない感じを表現できるか試しています。</p> <p>T:弾く位置や弾き方をいろいろ試すことで、自分の思う切ない感じの表現を見つけていきましょう。</p> <p>T:フルートの旋律に対して、どのようなギター伴奏を考えていますか。</p> <p>S:自然の中を歩く感じにしたいと思っています。フルートは柔らかく澄んだ音色を持っていると考えるので、ギターの伴奏ではやわらかい音色でフルートの主旋律を支えるようにしていきたいと思います。今は、ふさわしい「やわらかい音色」を演奏しながら見つけています。</p> <p>【板書の表 音色①】</p>	<p>ふさわしい器楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p> <p style="text-align: right;">思 <ワークシート・観察></p> <p>○弾く位置や弾き方を変えて、自分の表現したい演奏に近付けるように、試行錯誤しながら考えられるようにする。</p>
--	---

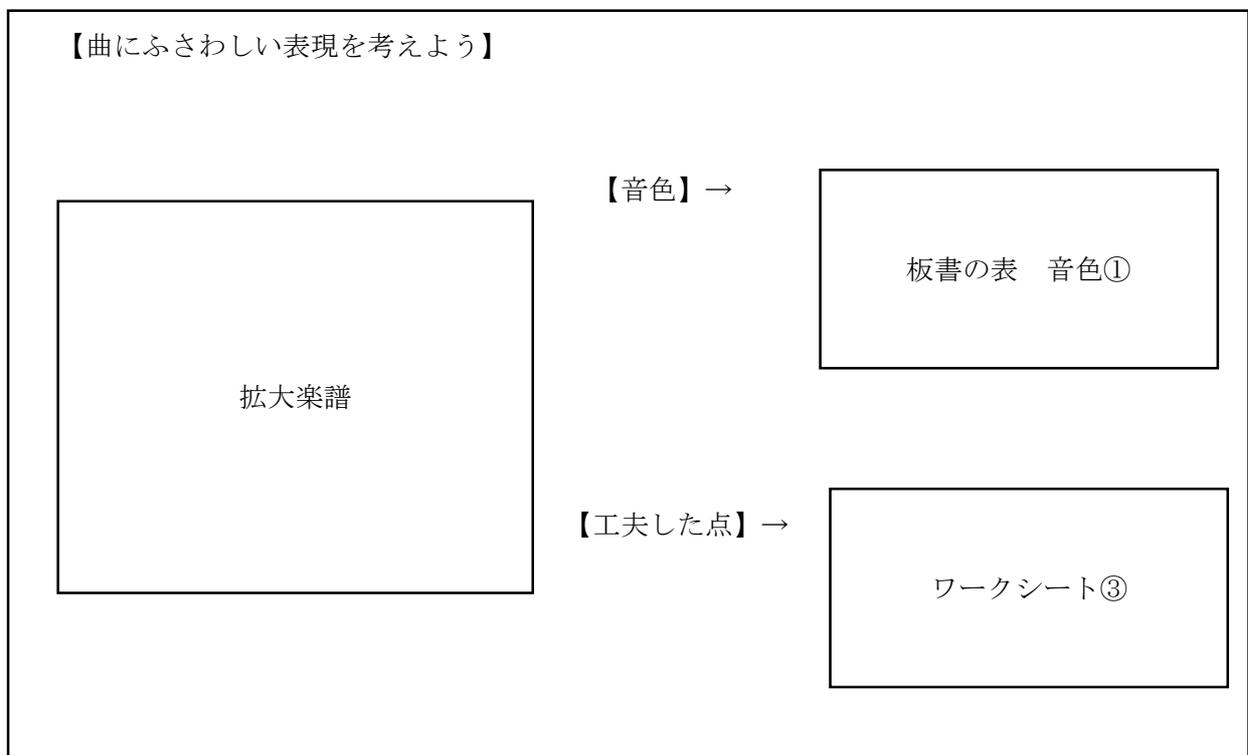
弾く位置	指板寄り ←————→ ブリッジ寄り			
演奏する指の場所 (弾き方)	指の腹		爪	
特徴	丸みのある 温かい音	繊細で やわらかい音	明瞭な音	金属的で冷たい 印象の音
音色の傾向	やわらかい ←————→ かたい			

第1時の活動で、弾く位置や弾き方を変えることで音色に変化が見られることに気付かせ、「弾く位置」「弾き方」「特徴」は、生徒の言葉やワークシートから表を完成させていく。「音色の傾向」は、第2時の活動で試行錯誤する前に、生徒と確認をしながら分かりやすいように「やわらかい⇄かたい」のような表現にして付け加える。

<p>○本時の学習を振り返り、次時の活動への見通しをもつ。</p>	<p>○数人の生徒の音楽表現の工夫を紹介し、次時の活動につながるようにする。</p>
-----------------------------------	--

<p>・本時に気付いたことや感じたことをワークシートに記入する。</p> <p>S: やわらかい音色で伴奏するためにも、コードチェンジをスムーズにできることが必要だと感じました。</p> <p>S: 前時に気付いた音色の変化をいろいろギターの演奏で試しながら、どのように演奏すれば曲にふさわしい表現になるか考えることができました。</p> <p>S: やわらかい雰囲気演奏したいので、様々なストロークを試しながら演奏しました。</p>	<p>○本時に考えたことや習得した技能、また自分の思いを音楽表現につなげることができたか記録しておくことで、次時に生かせるようにする。</p>
---	---

9 板書計画



板書では、色分けをした拡大楽譜と前時のリズムパターン等を示す。曲にふさわしい表現としてどのように演奏するかについて思いや意図をもつときに、音楽を形づくっている要素【音色】の視点で考えられるようにする。表現したい演奏に近付けるためには、今までの授業内容から【音色】→「弾く位置」「弾き方」を変えることで感じたことを手がかりに考えることに気付かせる。また、試行錯誤を繰り返す、学習に取り組むようにしていく。

10 評価の実際（ワークシート等の記録方法含む）

A表現(2)器楽ア、イ(イ)、ウ(ア)は、生徒の観察を軸にししながら、発言、ワークシートの記述、演奏記録も考慮して評価していくことが重要である。

以下、記述や記録の例を挙げる。

(1) 第2時における「思考・判断・表現」に関する評価の具体

生徒の思考と技能を関連させることで、生徒の考えていること、伝えたいことを評価していくことができる。そのためには、活動中の生徒を十分に観察し、その意図についても尋ねるなどして把握していく必要がある。特にA評価とされる生徒については、積極的に全体へ共有を行うことで、言語化が難しかったり、こんな風に音楽表現したい気持ちをどうしたらよいか困ったりしている生徒の助けになる。

例として「曲の雰囲気がある程度理解し、演奏に反映しようとする姿勢が見られる」「力強くではなく、柔らかく演奏したいので、ネックに近いところで指の腹で演奏したい」などの記述等が見られる状況であればB評価とすることが考えられる。さらに、「曲の構成や雰囲気を理解し、ふさわしい表現【音色】を工夫して演奏しようとする姿勢が見られる」「裏拍を意識したノリのよさが曲の特徴と考えたので、軽快なリズムも取り入れてみた。サウンドホールの上で弾き、開放感のある広大な自然や田舎道を思わせるように演奏したい」などの記述等が見られる状況であればA評価とすることが考えられる。

(2) 第3時における「技能」に関する記録例（ICT活用）と評価の具体

成果だけでなく、学習の過程も評価していく。また、第3時の演奏や観察、録画したものを評価に活用する。

ワークシートには、選んだリズムの理由・弾く位置や弾き方を具体的に記述させる。発表する際には、「なぜ、そのリズムを選択したのか、どのような音色で表現したいのか」を説明させる。それによって、どのような思いや意図をもって音楽表現をしようとしているのかを把握する。伴奏としての役割も担っていることを考えているか確認する。

例として「コードを概ね正しく押さえている。コードチェンジに多少ぎこちなさがあるが、曲を通して演奏できる。自分の意図としている音色で演奏できている」「アンサンブルにおいて、主旋律とタイミングを合わせようと努力している」状況であればB評価とすることが考えられる。さらに、「左手・右手の動きが安定し、コードチェンジやストロークが滑らかである」「伴奏としての役割を理解して主旋律を支えるような意図としている音色や奏法を工夫して演奏ができている」状況であればA評価とすることが考えられる。

(3) ワークシートを活用した振り返り

題材を通したワークシートを用意することで、生徒が見通しをもって学習できる。また、机間指導では生徒と会話をして、自分の思いや意図など伝えたいことを適切に言語化ができるように助言する。